

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分らしく生きがいの持てる生活」「可能な限り自立できるよう支援していく」を下に地域と密着型サービスの理念を検討している。		地域密着型サービスとしての理念を具体化に取り組んでいるが、地域や利用者のニーズ、事業所の状況変化によって現状にあった理念に作り変え、その人らしい生活することを支えるケアの具体的なイメージを持った理念を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングやユニット会議において、具体的事例に基づいて討議と検討しながら実践に活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(お祭り・盆踊り・花火大会・公園清掃)に積極的に参加して交流を図っている。地域用のお便りを作成し、ホーム内の生活の様子を知らせると共に、行事・町内会・近隣の方との合同でバーベキュー・夕涼みの会を実施・畑づくりの協力を呼びかけなどし地域との交流に努めている。		敷地内の一部を「貸し畑」として地域に開放し、地域の交流の場とする案も検討されている。今後に期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は実践の質の向上心が高く、全員で自己評価に取り組み、外部評価で出された点をミーティング・ユニット会議で話し合い、具体的改善に取り組み実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営会議には、自己評価、外部評価結果を開示し、一方的報告にならないように意見交換をしている。会議で出された問題点や改善点については、課題として取り入れ、職員とのミーティングやユニット会議で検討し、改善に取り組んでいる。議事録を作り開示している。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>前年度まで、市は「あまり介入しないほうがよい」との考え方があり、関係が薄かったが、今年度はホーム側から積極的に関り、情報交換に努めている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月通信でホーム内の生活や職員の移動について知らせ、各個人の状況と金銭管理状況などは別紙にし、郵送している。面会時にも状況を伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置しているが、運営会議においても、家族からの意見を求めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動・離職の際は、個別ケアの時間を徐々に減らし、入居者・家族に理由を説明している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人を優先に外部研修に出している。資質の向上に向けて、当法人経営主体である病院が主催する年2回の研修会には勤務者以外の参加とミーティングを利用して事例検討を行っている。緊急時の対応について、ミーティング時に事例を出し、シュミレーションしている。</p>		<p>ミーティング時と当法人経営主体が主催する内部研修を行っているが、職員（新人と役職者以外）の資質向上に、外部研修を受けることも必要と思われ、計画を立ててみることを期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会・広域連絡会の会議に出席し、情報・意見交換をしている。</p>		<p>相互訪問によるサービスの資質向上に向けた取り組みを企画してみることを期待したい。</p>
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>申し込み後、本人にホームの見学してもらい、入居後他者とのバランス・環境・対応する職員に注意を喚起しながら、家族からも生活暦をできるだけ収集して、連絡を取りながら対応している。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「可能な限り自力で」を理念としており、自力歩行が継続できるように、居室から居間へ階段の上り下りを毎日する中で身体機能の維持に繋げている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>3ユニットの何所のユニットにも行くことができ、隣の家遊びに行く感覚で、利用者同士が交流している。職員は他のユニット利用者が来ても暖かく迎え入れ、お茶のサービスをしている。一人静かになりたいときは、2階の居室や廊下の椅子を利用している。全職員は利用者全員(27人)の情報を共有し、同じケアができるように話し合いをして支援している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員全員で意見を出し合い、本人の思いと、家族の要望を聞きながら、医者とも相談して介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>情報収集において、記録とデータ分析を行い、モニタリング・アセスメントの回数を状況に応じて見直しをし、本人・家族・関係者と十二分に話し合い、現状に応じた介護計画を作成している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>毎週医師が来訪による健康相談に顔馴染みの看護師が同行し、日常の健康管理を支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況・経過と現在の受診希望を把握し、本人・家族の希望に応じている。週1回病院の医師が来訪による健康相談をして精神的支えをしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居後早い時期に、本人と家族から終末期についての意向を聞き、覚書を交わし書類をお互いに所持して、主治医と連携しながら治療方針を確認している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報には慎重に取り扱いされている。トイレ誘導にもさり気なく誘い、周りに気づかれないようにして、人の前で介護や誘導の言葉かけに注意して対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人の習慣や生活暦を考え、その人なりの体調に配慮し、情報の共有化をしながら個別対応をしている。買い物・散歩は個々人のペースでしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットによって入居者の体調、好みなど考えて調理方法を変え献立を作っている。盛り付け・片づけなど出来る利用者には重なり合わないよう分担して行ってもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望に沿って午前・午後・曜日に関係なく入浴している。他のユニットでも入浴できるようになっている。希望があれば就寝前のシャワー入浴もできる。時には当事業母体である病院のデーズサービスの大きなお風呂へ入浴に行く時もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し・たたむ・掃除・食事の後片付けなど家事への協力や畑作りを共にやっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はなるべく外に出て、日光浴・散歩・ドライブ・買い物に出かける。時々弁当持参で公園などに出かけている。町内の季節行事であるお祭り・盆踊り・花火大会へ参加して楽しんでいる。レクリエーション記録簿を作り、個々人が楽しんでいる状況がわかりやすく記載され、利用者同士の相性も判るようになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はもちろん、ユニット間の仕切りの戸も開放して、職員全員が27人を見守っている。勉強会で身体拘束をしないケアを学び実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練を実施している。町内会に防災組織が今年でききたことで、ホームが積極的に働きかけ、秋に共同で訓練を実施する予定になっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養担当者が献立表を作成し、一人ひとりの食事量・水分量を把握し、状況に応じた支援をしている。個別の残食量を記録し支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・廊下・居間・台所は広く、吹き抜けの天井と大きな窓からの光が差し込み部屋全体が明るく、光が強いときはカーテン・ブラインドで調整している。窓・ベランダからは畑や外の景色を眺めることができる。3月・5月はお雛様や5月人形を飾り、鯉のぼりを見ることが出来る。居間には手が届き見やすいように新聞・雑誌・お手玉などが置いてある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の多くは2階にあり、本人が使い慣れ馴染みの家具や装飾品・仏壇などを持ち込んでいる。ベット横壁にコールボタンが設置され、何かあったときに押せるようになっている。家族が泊まれる部屋も用意されている。		

 は、重点項目。